



## PRESS RELEASE

AIG  
175 Water Street,  
New York, NY 10038  
[www.aig.com](http://www.aig.com)

本稿は 2019 年 12 月 18 日 AIG 米国本社が発表した英文プレスリリース（原文）の参考訳です。  
本稿と原文との間で解釈に相違が生じた際には、原文が優先します。  
AIG ジャパンのホームページには、原文の発信日付で掲載しています。

## ピーター・S・ザッフィーノを AIG 社長に任命

ザッフィーノは現職の AIG のグローバル・チーフ・オペレーティング・オフィサーおよび損害保険事業部門 CEO も継続して兼任

ニューヨーク、2019 年 12 月 18 日- アメリカン・インターナショナル・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所銘柄=AIG）は、本日、ピーター・S・ザッフィーノを、2020 年 1 月 1 日付で AIG の社長に任命することを発表しました。ザッフィーノは現職の AIG のグローバル・チーフ・オペレーティング・オフィサーおよび損害保険事業部門 CEO も継続します。

AIG の CEO であるブライアン・デュパロウは、次のように述べました。

「本日の発表は、ザッフィーノ氏がこの数年にわたって AIG にもたらしてきた価値が評価された結果です。特に引受および再保険の分野で成し遂げた根幹的な変革といった、AIG の損害保険事業部門における同氏の戦略的なアプローチは、我々がビジネスで顕著な成果を実現するうえで不可欠なものでした。それに加えてザッフィーノ氏は、AIG をパフォーマンスの高いトップレベルの企業にするために複数年にわたって世界的に取り組むプロジェクトである『AIG 200』の統括にもあたっています。ザッフィーノ氏のリーダーシップが引き続き AIG の持続的な発展に貢献し、我々を世界的なマーケット・リーダーへと導くものと確信しています。」

ザッフィーノは「AIG 社長への任命は私にとって非常な名誉であり、デュパロウ氏および AIG 取締役会の私への信頼に感謝します。全世界の献身的な AIG 社員と力を合わせ、戦略的価値、卓越したオペレーションおよび強固な財務力で、保険会社のリーディング・カンパニーになるという目標に向けて歩んでいけることに大きな期待を感じています。」と述べました。

ピーター・ザッフィーノは 2017 年 7 月にエグゼクティブ・バイスプレジデント兼グローバル・チーフ・オペレーティング・オフィサーとして AIG に入社し、同年 11 月に AIG の損害保険事業部門 CEO に就任しました。AIG への入社以前は、マーシュ・アンド・マクレナンカンパニーズ (MMC)において、2011 年から 2017 年までマーシュ LLC の CEO を務めると共に、2015 年からは MMC のリスク・アンド・インシュアランス・サービスズセグメントのチェアマンを務めました。

AIG グループは、世界の保険業界のリーダーであり、80 以上の国や地域でお客さまにサービスを提供しています。創業以来の 100 年の経験に基づき、現在では、損害保険、生命保険、退職給付およびその他の金融サービスを幅広く提供しています。AIG グループの商品・サービスを通じた多岐にわたるサポートは、法人および個人のお客さまの資産を守り、リスクマネジメントおよび確かなリタイアメント・セキュリティをお届けします。持株会社 AIG, Inc.はニューヨーク証券取引所に上場しています。



AIGの追加情報については [www.aig.com](http://www.aig.com) | You Tube : [www.youtube.com/aig](http://www.youtube.com/aig) | Twitter : @AIGinsurance [www.twitter.com/AIGinsurance](http://www.twitter.com/AIGinsurance) | LinkedIn : <http://www.linkedin.com/company/aig> を参照ください。AIGに関する追加情報を記載しているこれら参照先は便宜上提供されており、かかるウェブサイトに記載されている情報は、参照することにより本プレスリリースに組み込まれていません。

AIGとは、AIG, Inc.傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイアメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名です。より詳細な情報については当社のホームページ（[www.aig.com](http://www.aig.com)）を参照ください。全ての商品およびサービスはAIG, Inc.傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されています。これらの商品およびサービスは一部の国では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠します。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがあります。一部の損害保険の補償については、サープラス・ラインの保険会社によって提供される可能性があります。サープラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われません。